慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ユムシ類を中心とした海産環形動物の系統分類学的研究
Sub Title	Taxonomic studies of marine annelids in Japan, with special reference to the echiurans
Author	田中, 正敦(Tanaka, Masaatsu)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究の目的は、ユムシ類を中心とした海産環形動物の分類学的研究を実施することで、海域の底生生物群集において重要な位置を占める環形動物の生息状況や絶滅のリスクを定量的・定性的に評価するために不可欠な、生物多様性情報の集積とその基盤を確立することである。当初の計画では、国内での野外調査と国内外の博物館標本調査を実施する予定だったが、いずれも調査の実施予定時期と新型コロナウイルスの変異株の蔓延期間が重なったため、断念した。そのため、国内外の関連文献を網羅的に収集し、その解読と各文献に含まれる環形動物の生物多様性情報の抽出と整理作業に多くの時間を割いた。また、研究を通じて見出された、深海性ボネリムシ類3属の著者権に関する命名学的問題、そしてホシムシ類の古典的モノグラフ「Die Sipunculiden」の出版年ならびにそこに含まれる学名の公表年に関する問題を解決するべく、情報収集と論文執筆を進めた。このほかに、以下の4つの成果を挙げた。 1) 2020年6月から9月にかけて大阪湾奥部で採集されたユムシ類9個体が、国内では2002年以来の記録となる外来種ミナトタテジマユムシであると同定されたため、本種の新たな形態学的知見と併せて学会発表を行った。 2) 2013年に新種記載されたのち、ほとんど記録がなかったセトウチドチクチユムシについて、2013年～2020年の間に採集された新規標本ならびに博物館所蔵標本の検討結果に基づき、本種の新たな国内産地4箇所について学会発表を行った。 3) 2020年6月に鹿児島県出水市高尾野川河口干潟から採集されたユムシ類1個体の標本の検討を行った結果、ユメユムシと同定されたため、本種の国内南限記録として報告した。 4) おもに2021年7～9月の間に広島県竹原市ハチの干潟およびその周辺地域で採集された環形動物標本の検討を行い、日本初記録1種と県内初記録1種を含む計22種を同定した。各種について書籍中の解説を執筆した。 The purpose of this study is to conduct a taxonomic study of marine annelids, with a special focus on echiurans, in order to establish a solid basis for quantitative and qualitative assessment of the current status of extinction risk of these animals in Japan. The initial plan included conducting field surveys and visiting museums and surveying specimens there, but both were abandoned due to the spread of the new strains of the SARS-CoV-2. Therefore, I devoted much of my time to collecting the literature related to annelids and extracting and organizing the biodiversity information contained in each literature. In addition, I am in preparing two papers to solve the nomenclatural problems of the authorships of three generic names of deep-sea bonelliids and the date of publication of the scientific names originally proposed in the classical monograph on sipuculans, "Die Sipunculiden" during 1883 to 1884. From April 2021 through March 2022, I published two original papers, wrote brief accounts for 22 species of annelids in a book (to be published), and gave two conference presentations.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210184

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2022 年 4 月 11 日

2021 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	商学部	職名	助教（有期）（自然科学）	補助額	500 （特B）千円
	氏名	田中 正敦	氏名（英語）	Masaatsu Tanaka		

研究課題（日本語）

ユムシ類を中心とした海産環形動物の系統分類学的研究

研究課題（英訳）

Taxonomic studies of marine annelids in Japan, with special reference to the echiurans

１．研究成果実績の概要

本研究の目的は、ユムシ類を中心とした海産環形動物の分類学的研究を実施することで、海域の底生生物群集において重要な位置を占める環形動物の生息状況や絶滅のリスクを定量的・定性的に評価するために不可欠な、生物多様性情報の集積とその基盤を確立することである。当初の計画では、国内での野外調査と国内外の博物館標本調査を実施する予定だったが、いずれも調査の実施予定時期と新型コロナウイルスの変異株の蔓延期間が重なったため、断念した。そのため、国内外の関連文献を網羅的に収集し、その解読と各文献に含まれる環形動物の生物多様性情報の抽出と整理作業に多くの時間を割いた。また、研究を通じて見出された、深海性ボネリムシ類 3 属の著者権に関する命名学的問題、そしてホシムシ類の古典的モノグラフ「Die Sipunculiden」の出版年ならびにそこに含まれる学名の公表年に関する問題を解決するべく、情報収集と論文執筆を進めた。このほかに、以下の 4 つの成果を挙げた。

1）2020 年 6 月から 9 月にかけて大阪湾奥部で採集されたユムシ類 9 個体が、国内では 2002 年以来の記録となる外来種ミナトタテジマユムシであると同定されたため、本種の新たな形態学的知見と併せて学会発表を行った。

2）2013 年に新種記載されたのち、ほとんど記録がなかったセトウチドチクチユムシについて、2013 年～2020 年の間に採集された新規標本ならびに博物館所蔵標本の検討結果に基づき、本種の新たな国内産地 4 箇所について学会発表を行った。

3）2020 年 6 月に鹿児島県出水市高尾野川河口干潟から採集されたユムシ類 1 個体の標本の検討を行った結果、ユメユムシと同定されたため、本種の国内南限記録として報告した。

4）おもに 2021 年 7～9 月の間に広島県竹原市ハチの干潟およびその周辺地域で採集された環形動物標本の検討を行い、日本初記録 1 種と県内初記録 1 種を含む計 22 種を同定した。各種について書籍中の解説を執筆した。

２．研究成果実績の概要（英訳）

The purpose of this study is to conduct a taxonomic study of marine annelids, with a special focus on echiurans, in order to establish a solid basis for quantitative and qualitative assessment of the current status of extinction risk of these animals in Japan. The initial plan included conducting field surveys and visiting museums and surveying specimens there, but both were abandoned due to the spread of the new strains of the SARS-CoV-2. Therefore, I devoted much of my time to collecting the literature related to annelids and extracting and organizing the biodiversity information contained in each literature. In addition, I am in preparing two papers to solve the nomenclatural problems of the authorships of three generic names of deep-sea bonelliids and the date of publication of the scientific names originally proposed in the classical monograph on sipuculans, "Die Sipunculiden" during 1883 to 1884. From April 2021 through March 2022, I published two original papers, wrote brief accounts for 22 species of annelids in a book (to be published), and gave two conference presentations.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
Yoshino K, Yamada K, Tanaka M, Tada Y, Kanaya G, Henmi Y, Yamamoto M	Subtidal benthic communities in Minamata Bay, Japan, approximately 30 years after mercury pollution remediation involving dredging disturbance	Ecological Research 37: 137-150	2022
田中正敦，是枝伶旺，本村浩之	鹿児島県出水市高尾野川河口から採集された南限記録となるユメユムシ（環形動物門：ユムシ類）	Nature of Kagoshima 48: 371-375	2022
田中正敦，菊田昌義	大阪湾に再び出現したミナトタテジマユムシ（環形動物門ユムシ類）の報告とその形態学的新知見	日本動物分類学会第 56 回大会（オンライン開催）	5 Jun., 2021
田中正敦，佐藤大義，幸塚久典	セトウチドチクチユムシ（環形動物門ユムシ類）の新産地報告	2021 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会（オンライン開催）	18 Sep., 2021
田中正敦（分担執筆）	ハチの干潟の生きものたち（近藤裕介・大塚攻・佐藤正典 編集）	株式会社 PUBFUN	Apr., 2022（予定）